

7-1 2 気候変動適応等

7-1 2-1 現況調査(既存資料調査)

(1) 調査概要

事業計画地周辺の大規模地震による被害想定を把握するため、既存資料調査を実施した。
既存資料調査の概要は、表 7-1 2-1 に示すとおりである。

表 7-1 2-1 既存資料調査の概要

項目	内容
調査項目	大規模地震による被害想定
調査地域	事業計画地周辺
調査時期 頻度	最新の年度
調査方法	「和泉市地震ハザードマップ」及び「岸和田市地震ハザードマップ」を収集整理

(2) 調査結果

調査結果は、「第 4 章地域の概況 4-3 自然環境 4-3-8 地震」(p172～p176 参照)に示したとおりである。なお、和泉市及び岸和田市で最も大きい震度が想定されるのは上町断層帯地震であり、事業計画地周辺ではこの地震の発生によって最大で震度 6 強以上の揺れが想定されている。

7-1 2-2 施設の供用に係る影響予測

(1) 予測方法

本事業は、グループ会社である株式会社クリーンステージが平成17年から稼働させている焼却施設を解体・撤去し、同敷地内において大栄環境株式会社として新規焼却炉を建設する「焼却炉建替え事業(スクラップアンドビルド)」である。

地震に起因する化学物質の漏洩の予測概要は、表7-1 2-2に示すとおりである。

表7-1 2-2 施設の稼働に伴う化学物質の漏洩についての予測概要

項目	内容
予測項目	地震に起因する化学物質の漏洩
予測事項	発生リスクの程度
予測方法	既存類似例等を考慮し、事業計画により予測する方法
予測地域	事業計画地及び周辺
予測時期	事業活動が定常状態となる時期

(2) 予測結果

事業計画では、処理前及び処理後の廃棄物は、これまで同様に種類ごとに廃棄物ピット、ストックヤード、受入タンクにて適切に受入・保管を計画している。

また、事業計画により漏洩リスクのある化学物質の概要は、表7-1 2-3に示すとおりである。

なお、地震に際しては、貯留タンク破損による漏洩が予測されるが、いずれの化学物質の貯留タンクも屋内に設置され、漏洩対策として流出防止堤を計画しているため、地震に起因する化学物質の漏洩の発生リスクはないと予測した。

表7-1 2-3 漏洩リスクのある化学物質の概要

化学物質	使用設備	設置個所	漏洩対策
塩酸	ボイラ純水装置	屋内	流出防止堤
苛性ソーダ	ボイラ純水装置		
キレート剤	飛灰固化設備 (ばいじん固化設備)		

7-1 2-3 評価

(1) 評価の方法

予測結果について、表 7-1 2-4 に示す評価の指針に照らして評価した。

表 7-1 2-4 評価の指針

項目	評価の指針
気候変動適応等	環境への影響を最小限にとどめるよう環境保全についての適正な配慮がされていること。

(2) 評価結果

地震に際しては、貯留タンク破損による漏洩が予測されるが、いずれの化学物質の貯留タンクも屋内に設置され、漏洩対策として流出防止堤を計画しているため、地震に起因する化学物質の漏洩の発生リスクはないと予測した。

したがって、地震に関して定められた目標の達成と維持に支障を及ぼさないものと評価する。

また、地震の影響をさらに低減するための環境保全対策として、以下に示す対策を講じる計画であることから、環境への影響を最小限にとどめるよう環境保全について配慮していると評価する。

- ・危険物等の保管は、貯蔵タンクには流出防止堤を設けるなど、万一の流出時においても外部への流出防止を計画し、安全性の確保に努める。
- ・本事業は、耐震性能の確保や施設全体の処理設備ごとに分棟、機器に応じて独立基礎、非常用発電機の設置の対策を講じる計画であり、地震に起因する化学物質の漏えいによる環境リスクの低減に努める。

以上のことから、評価の指針を満足すると考えられる。